

子どもたちの安全を守るために



11月15日(月)に上多度小学校にて、養老警察署と養老地区交通安全協会による交通安全指導が行われました。下校前に、全校児童を対象として道路標識や登下校時の危険や注意事項、横断歩道の渡り方についてのルールを確認しました。その後、署と協会により下校する児童の見守りをしました。

西協協会長は「ニュースなどで見聞きする事故を他人事ではなく、いつ自分たちの身に起きてもおかしくないことだと危機感を持って欲しい。自分の身を守るための行動を」と訴えました。

運転手は早めのライト点灯を、歩行者は反射材の着用を



11月15日(月)に養老地区交通安全協会が管内全域の幹線道路において、交通安全街頭啓発活動が行われました。協会員は、薄暮時に事故が多発していることをうけ、運転手や歩行者へ対し、早めのライト点灯や反射材の着用、交通ルールの遵守についてプレートやのぼりにより呼びかけました。

町民の皆さまも、事故を未然に防ぎ、自分の身を守るための対策をしていただきますようお願いします。

危険を察知し、無事にゴールへ



11月19日(金)に町役場玄関にて、養老警察署と養老地区交通安全協会が運転シミュレータを用いた実践型交通安全教室を開催しました。天気や時間など様々な条件の中で、危険を察知しながら、事故を起こさずに無事ゴールを目指して運転の疑似体験をしました。高齢者だけではなく若者も体験し、視界が悪い中での運転時に事故に繋がる“潜んでいる危険”について確認する機会となりました。